

人がつながる豊かな言葉 ～その言葉、だれかを悲しませていませんか～

ある日の出来事

私（母）が夕ご飯の準備をしていると、1人ではいるはずの中学1年生になる息子が誰かと会話しているのが聞こえました。気になって息子に話しかけました。

母 「誰と話しているの？テレビゲームをしているんじゃないの？」

息子 「同じクラスのA君。ゲームをインターネットに繋げて、A君と一緒に相手を倒すんだ。」

そう言うと、息子はゲームを始めました。

A君 「相手が変な動きをしている。キチガイじゃない？」

息子 「確かに、キチガイやね。」



私（母）は、そんな会話をしながらゲームをする息子を見て、ドキッとしました。ゲームが終わった後、息子にさっきの会話について聞いてみることにしました。

母 「さっき、ゲームをしているときに聞こえたんだけど、キチガイっていう言葉はどういう意味で使っているの？」

息子 「変な行動をとる人に対して、ふざけるなみたいな感じで使っているかなー？」

母 「キチガイっていう言葉は精神的な疾患をもつ人を差別することに繋がる言葉なのよ。」

息子 「えっ？そうなの？この言葉はインターネットの動画配信でも使っている人がいるよ。」

母 「そうね。インターネットでは間違った言葉の使い方がたくさんされているわ。お母さんはね、あなたには、自分の使う言葉にどんな意味があるのかを理解して、責任ある発言ができる人になってほしいと思っているわ。」

「誰かが使っていたから大丈夫ではなくて、知らない言葉と出会ったときに、『使ってもいい言葉だろうか』『誰かを傷つける言葉ではないか』という疑問をもって、確かめる力をつけてほしいの。」

息子 「そうかー。知らないって怖いね。A君にも話してみるよ。」

言葉でつながる人と人

ここ数年、小中学生から聞こえることが増えた「キチガイ」という言葉は、昔は何か熱中する人のことを指す言葉としても使われていました。現在では差別に繋がる言葉としてメディアでも使わない言葉になっています。それは、日常的に使われていた言葉に対して「おかしいのではないか」という声があがり、社会の人権意識が高まり、使うべきではない言葉として変化していったからです。

差別に繋がる言葉はインターネットを中心に増え続けています。私たち一人ひとりが人権意識をもち、差別的発言を許さない姿勢をもつことで、人を不快にしたり傷つけたりする言葉は減っていきます。言葉は人と人がつながる大切なものです。みんなが笑顔になる、豊かな言葉でいっぱい社会をつくっていきましょう。